

令和8年度 栄緑小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号:23025

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

栄緑小学校

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇仲間とつながり、学びを実感する授業の実践を最重点として取り組んできた。札幌市の共通指標「意見を進んで発言しようとしている」はR6が75%、R7は80%、「意見の違う人とも話し合おうとしている」はR6が84%、R7は87%の児童が肯定的な回答をしている。「つながり」を中心に授業実践を行うことを通して、「主体的・対話的で深い学び」に向けた成果の現れが感じられる。</p>
	<p>◇札幌市の共通指標「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている」は79%、「考えがうまく伝わるように話の内容や順序を考えている」は76%の児童が肯定的な回答をしている。他の項目と比較するとやや肯定的な回答が少ない。進んで発言しようとする意欲を大切にしつつ、ICTを効果的に活用するなど、発達段階に応じた「伝え方」について指導していく必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標や本校独自のアンケートから「互いを大切にする」「思いやりをもって人と接する」「協働して楽しく学ぶ」など、子どもたちの相互承認に関連する項目は肯定的な回答が多い。自己肯定感が高いことも本校の特徴である。学年やブロック、また、いきいきグリーントime（異学年交流）でのつながりを通して、自己肯定感・自己有用感だけでなく、仲間を大切にする態度も育ってきた。子どもたちに価値付けを図りながら取組を続けていきたい。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

仲間とつながり、自己表現する子どもの育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究副主題「自分らしさを生かし、仲間とつながる授業の構築」</p> <ul style="list-style-type: none"> →子どもの実態を把握した後の授業構築 →一人一人が目標に迫る教材化 →子どもの思いに沿い、工夫の余地のある単元構成 →子どもが課題をつかみ、個別探究につながるイントロダクション →対話を生む教師の関わり →子どもが自ら表現方法を選択できる手立て →適用問題や振り返りなど、学びを実感する場の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ①よりよい学校生活にするための話し合い活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> →学級の様々な課題を議題にした学級会の実施 →豊かな学校生活にするために自主的・実践的に行う委員会活動 ②笑顔あふれる「いきいきグリーントime」（異学年交流） <ul style="list-style-type: none"> →一人一人の考えを大切にした楽しい活動づくり →個性を認め合い、互いを大切にする交流 ③自分たちの生活を振り返る場の設定 ④さっぽろっ子サミットなど、パートナー校区中学校との連携

「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について

- ◇課題解決に向けて、他者との対話や自己対話など思考が深まる学びの場面や、考えをまとめて発表する場面等で活用する。
- ワークシートや振り返りカードの作成、および交流にオクリンプラスを活用する。
 - 図形の把握・処理するためや解決の手立てを考えるためのツールとしてデジタル教科書を活用する。
 - 学習の実態把握、活動に対する意見の集約などにグーグルフォームを活用する。

<本プログラムの実行に向けて>

